

土岐川グリーンベルト通信 第126号

令和7年度「笠原の森」笠原中学校による活動報告

土岐川流域グリーンベルト活動とは

多治見市・土岐市の“市街地に隣接する樹林地”を「土砂災害に強く、自然環境や景観が豊かな樹林地（グリーンベルト）として保全・創出すること」を目的とし、行政機関やボランティア団体等地域と連携して活動しています。

笠原中学校での取り組み

笠原中学校の1年生59名が、ふるさとの森「笠原の森」を舞台に、土砂災害や樹林の働きなどについて学び、森林の土や木の観察を行いました。他にも木の伐倒見学や砂防堰堤の見学を行い、五感で自然を体験しました。

この活動は、多治見市、多治見さぼう・みちボランティアクラブ、多治見砂防国道事務所とともに実施しました。

○学習会 10月8日

屋内学習「砂防のはなし」「森のはなし」「ハザードマップの確認」

「笠原の歴史について」

屋外学習「土石流模型実験」

○観察会 10月23日

野外学習「木の伐倒見学」「砂防堰堤の見学」「森の土・木の観察」



10/8 学習会（森に入る前の事前学習）



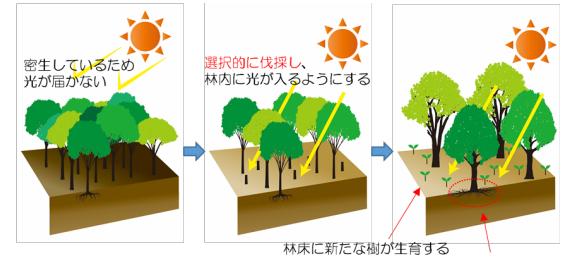
強くて豊かな樹林にするために

多治見市では、かつて陶土の採掘等によって「はげ山」が広がっていました。「はげ山」では、少しの雨で大量の「土砂」が流出し、下流域では土砂災害が頻発していました。はげ山からの土砂の流出を軽減するため実施した砂防事業等により、緑が回復しました。

しかし、現状の「笠原の森」は林床が暗く植物が芽生えにくい環境であり、斜面崩壊防止機能をはじめとした樹林が備えるさまざまな効果が期待しにくい状況となっています。

そのため、樹木を伐採・管理することで、土砂災害に強い「明るい樹林づくり」に取り組んでいます。

樹木の伐採活動（樹林整備活動）



砂防・森のはなし



「砂防・森のはなし」では、樹林地が荒廃していた歴史や樹林整備の必要性を学びました。

ハザードマップの確認



多治見市の職員の方から、ハザードマップの説明をしていただき、危険箇所を確認しました。

笠原の歴史について



笠原の歴史とはげ山から森林への移り変わりの過程について、勉強しました。

土石流模型実験



砂防堰堤によって、土砂災害の被害が軽減される仕組みと様子を模型実験で学びました。



10/23 観察会

今年度は、「木の伐倒見学」や「砂防堰堤の見学」、「森の土・木の観察」を行いました。これらの活動を通じて生徒たちは「笠原の森」に触れるとともに、土壤や樹種の特徴から、「笠原の森」における樹林整備の必要性を学びました。校舎移転に伴い、笠原中学校の「笠原の森」での活動は本年で最後の予定となります。本年度も、多治見市、多治見さぼう・みちボランティアクラブ、多治見砂防国道事務所の指導のもと、ケガなく活動を終えることができました。

危険予知活動



木の伐倒見学



砂防堰堤の見学



森の木と土の観察



○生徒のコメント（一部抜粋）

- ・土石流模型実験から土石流のおそろしさと、砂防堰堤の重要さが分かりました。
- ・木を切る所がすごく印象に残りました。切る向きがあつて勉強になりました、切り株は湿っていて、水を吸っているんだなと思いました。
- ・森に入る前は森なんて全部同じだと思っていたけど、入ってみると整備された場所と整備されていない場所では暗さも歩きやすさも違つて驚きました。
- ・今回の学習会・観察会では森はしっかり整備し、見守つていかなければ森との付き合い方をまなぶことができた。その中でも、木の伐採がしっかり考えられて行われていることが強く印象に残った。
- ・森に入る前はあまり意識してなかったが、森に入ったら興味が湧いてきて、自分から調べるようになりました。
- ・これからも自分たちの活動で笠原の森を守つていかなければならず、守るために自分たちが行動することが大切だと思えるようになりました。

○笠原の森グリーンベルト活動の経緯

平成12年：活動開始（講義、歩道計画、歩道整備等）
平成14年：樹林整備開始

…活動開始から今年で26年目になります。

○過去の主な支援者

多治見市、岐阜大学、NPO法人鎮守の森、
市之倉森づくり合同部会、
多治見さぼう・みちボランティアクラブなど

作成者・お問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局

多治見砂防国道事務所 砂防調査課

〒507-0023 岐阜県多治見市小田町4-8-6

TEL : (0572)25-8024

【事務所HP】 【砂防X(旧Twitter)】

